

2013年2月21日

共同通信社科学部長 長澤克治 様

食のコミュニケーション円卓会議

代表 市川まりこ

<http://food-entaku.org/>

この度は、私どもの質問に回答いただきありがとうございました。  
せっかくご回答いただきましたが、貴殿の回答からは、科学的根拠に基づいた良質の情報、分かりやすく伝えるというメディアとしてのポリシーが読み取れず、大変残念に思いました。お送りいただいた回答について、改めて4つの質問をさせていただきたいと思えます。

回答1：「菜種とカラシナの交雑個体は、2008年に「遺伝子組み換え食品を考える中部の会」が愛知県豊川市で見つけ、市民団体の集まりなどで発表しています。」

質問1：市民団体から発表されていますが、それについて本当に雑種であるという科学的な証明はなされていません。検証されてないことをそのまま鵜呑みにして報道する姿勢に疑問を感じます。科学的な確認や裏付けは不要とお考えでしょうか？

回答2：「記事中にあるように、これまで見つかっていなかった内陸で自生しているケースや、1次検査をすり抜け2次検査で判明したケースがあり、「事態は深刻化している」と考えます。」

質問2：自生が確認された遺伝子組換えナタネは政府により安全性が確認され、こぼれた落ちた種子が自生しても問題ないとされているものです。相反する事実または意見がある場合、双方の意見を基に記事は書かれるものと思いますが、そうされていないのはなぜでしょうか。また、「事態が深刻化している」とは、具体的に何がどのように深刻化しているのかご教授ください。

回答3：「組み換え菜種の遺伝子が移行した近縁の野菜の栽培」は、全ての農家が毎年野菜の種子を買って栽培しているわけではなく、遺伝子移行の恐れもあるという指摘を記述したものです。」

質問3：遺伝子組換えの問題以前に、そもそもナタネがハクサイやカブ、カラシナなどに交雑すれば、ハクサイなどとはいえないような植物になります。農家がそれを栽培し、商品として販売するとは考えにくいのですが、いかがでしょうか。

回答4：「交雑とみられる個体」と、交雑の可能性のあることを示した表現にしています。」

**質問4**：もう少し取材をしていただければ、セイヨウナタネとハタザオガラシは遠縁で通常の交配では雑種ができにくいことは分かると思います。その状況を踏まえれば、安易に「可能性はある」と書けないと思います。なお、きちんと検証された上で雑種と判明すれば、その旨を記事にすることは必要なことです。

この質問書は、御社にお送りするとともに、情報を共有するために、食のコミュニケーション円卓会議HPに掲載致します事をご了承ください。なお、回答の有無につきましても掲載していきます。

今後の貴社の対応について、3月8日までにご回答をお願い申し上げます。

連絡先

食のコミュニケーション円卓会議